

事例6-1

取組名	「町会長通信」を通じた町会活動の周知及び担い手の確保		
町会名	りょうしま 両島町会（鎌田地区）	町会 データ	・人口／1,587人 ・世帯数／673世帯 ・高齢化率／18.5% ・町会加入数／550世帯 ・常会数／4ブロック ・隣組数／30組
取組概要	○ 町会活動に関心を持ってもらうため、毎月「町会長通信ゴリクマくんだより」を発行 ○ 写真等は用いず、あえて文章のみで構成しメッセージを発信		

背景・課題

- ・ 転入してきた世帯のほとんどが町会に加入しているが、いかに町会活動に興味を持ってもらうかが課題となっている。
- ・ また、今後の町会運営を見据え、町会役員の担い手確保も必要になっている。

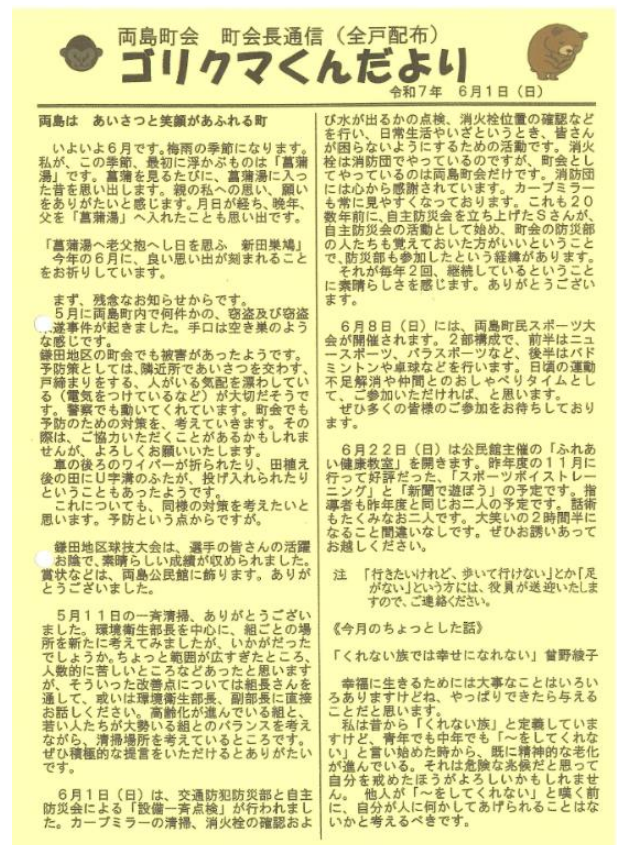
経過・取組内容

- ・ これまで、町会行事等については「町会だより」で周知していたが、町会活動への関心を醸成するため、R4から町会長自ら「町会長通信ゴリクマくんだより」を発行し、毎月全戸配布している。
- ・ 言葉の裏側にある思いを読み取ってもらいたいという希望から、紙面にはあえて写真等を使わず、文章のみで構成している。

成果・今後の展望等

- ・ 地元グラウンドの草刈りに、「町会長通信」を読んだ住民が参加してくれるなど、これまで顔を知らなかった住民とのつながりが徐々に広がり始めている。
- ・ 転入者が、「町会長通信」をきっかけに町会活動に参加し、数年後、役員を担ってくれたケースもあった。
- ・ 三九郎の際には、「都会出身で見たことがないから関わってみたい」と、実際に三九郎作りのメンバーとして参加してくれた住民もいた。

- ・ 町会内に自主的な動きが広がるとともに、「人の役に立ちたい」「誰かのために動きたい」という気持ちを持った住民も増え始めている。
- ・ 今後も情報発信を継続することで、町会活動への参加促進や担い手の確保につながっていくと考える。



町会長通信ゴリクマくんだより

【ポイント】

- ▼ 町会長の「思い」を積極的に発信することで、町会を身近に感じてもらい、活動への関心を醸成